

ナメコ栽培における針葉樹のご屑の利用 (第1報)

- 針葉樹とナラのご屑の混用 -

信 太 寿 沓 沢 敏
小 田 清

針葉樹のご屑をナメコ栽培の培地原料として利用するために、これを広葉樹のご屑と混用して栽培試験を行った。なお、本報告は、第28回日本林学会北海道支部大会(昭和54年11月)で発表したものであり、詳細は同支部講演集に掲載した。

1. 試験方法

試験区を第1表に示す。

混合のご屑8容対米糠2容の培地を、常法により0.9 l 瓶に詰め込み、殺菌、接種し、22℃で3ヵ月間培養した。培養終了後、2瓶分をステンレス箱1箱ごとに入れかえ、温度10~12℃、湿度90%前後で発生させた。

2. 結果と考察

結果を第1表に示す。各樹種とも、ナラの混合比が大きくなるにしたがって収量が増加しているが、結局

収量が実用的な範囲で得られたのは、道産カラマツ・北洋カラマツの6割区と4割区であった。しかし、これらは1番出・2番出がナラよりも少なく、3番出で収量が増加してナラに近づいていく傾向にあった。これは、培地が未完熟な場合にみられる発生ピークの明確でない発生形態であり、カラマツの場合、ナラに比べて木質の腐朽が遅れるためではないかと考えられる。ナメコ栽培で最も問題となっているのは、栽培期間が長いことであり、発生期においてもできるだけ短期で主発生を終わらせたい。したがって、1・2番出が少ないことは経営的にみて不利なので、まだ実用できない。今後、これを改善するために、シナ・カバ等の発芽の早い広葉樹との混用を行い、かつ5割混用の可能性を確認したい。

また、トドマツのご屑は、無処理ではナメコ栽培に利用できない。今後は、散水堆積による前処理を行うて単用する方向で検討する。

- 林産化学部 特殊林産科 -
(原稿受理 昭和55.4.22)

第1表 各混合比におけるナメコ収量(g/箱)

樹 種	混 合 比 N : L			
	10 : 0	8 : 2	6 : 4	4 : 6
道 産 カ ラ マ ツ	197*	221°	261	268
北 洋 カ ラ マ ツ	177*	227	284	295
エ ソ マ ツ	166**	204°	257	254
ア カ エ ソ マ ツ	180**	187**	184**	244
ト ド マ ツ	153**	181**	210*	—

ナ ラ 対照区, N : L = 0 : 10 279g
注) **, *, °: 危険率1, 5, 10%でナラと有意差あり